

1948 (昭和 23) 年 7 月 18 日

同じように用水の必要を感じ阿久比で菅原用水を着工していた知多農村同志会の山本孝平は、記事を見て、久野庄太郎を一番に訪ね、語り明かしたという。

発展する 知多の夢

既報「水閘の開閉」の大きな夢であり、現願であつた「木曽川の水閘」は、十日知多協議会の半島農民大会決議一致の決議と、さるに十五日「信濃縣農家久野正太郎氏方における信濃縣農地部長、富岡商議所議長、森山知多地方事務長、深澤主一、一、代議士、同部選出議員、篠田次郎、王余名の縣議によりこの旨の方針を押し、て、日も、多岐にわたることに決定、八月早々沿道村は、あつた各方面の有力者、機敏を二九に集めて、知多用水、解成開閉案を達成し、農民を中心とする運動、発展させ、また積極的な動きをみせている（カッパは知多用水図）

この 用水は、水谷を木曽川流の隣、信濃川、山田に取入口を、老文字通り、風流

その名も「愛知用水」

文化宮農の基盤、今秋から猛運動

一國を南北に横断する一大水路で、

東濃の南部に落した本流は、信濃

北の山村地帯を貫通して、知多本

に入り、中央部、信濃の諸村を貫

て、関知多から伊勢湾に入るも、

行橋約四十里、さるに知多郡下

町付近から東濃の丘陵に分散して

半田川内、知多

に注ぎ、流れ約五里を、

水路、は、幅十、深三、

で、開閉は、本流入口で、

十、北、北、北、北、北、

知多半島で、開閉四十、

流れ年間十五、立、

しかも水路、開閉の、

銘の風光を、一、に、

光、

これ、により、

も、一、千石（約六、

田、に、

田、の、

害、から、

野、をも、

によつて、

の、

の、

の、

の、

以、致、年、に、して、完成、可能、で、中、央、に、は、過去、の、開、閉、で、十分、開、閉、の、價、値、を、認、め、て、お、り、本、縣、でも、す、で、に、本、年、度、開、閉、金、三、千、万、円、を、計、上、し、て、い、る、の、で、今、後、の、成、果、は、二、に、地、元、の、益、如何、に、あ、る、と、い、わ、れ、て、い、る、

に、期、待、し、受、益、金、開、閉、は、小、引、水、路、の、開、閉、費、を、予、定、さ、れ、て、い、る、が、本、縣、農、業、は、長、き、に、お、い、て、ま、れた、が、技、術、上、き、は、整、備、で、は、な、く、整、上、